

■鍛冶藤信 戦時体制下に、全国をまたにかけて活躍した博覧会プランナーで“ランカイ屋”の代表的存在。

かじふじのぶ

Bushidou・1899＝ 福岡市で生まれ、

日露戦争終・1905＝ 6歳：

アヲキ創刊・1908＝ 9歳：小学校4年の時、叔父を頼って、上京、

洋食屋で調理師の修業をし、

明治天皇没・1912＝13歳：

歌舞伎座の前に、自分の店を構えるまでになり、

ロシア革命・1917＝18歳：

店を時折訪れる女性と親しくなって、結婚するが、

原敬首相暗殺1921＝22歳：

関東大震災・1923＝24歳：_関東大震災で家財全てを失い、看板屋{研精社}を経営する妻の兄小林知治を頼り、

優れた文字書きだった義兄の職人肌と生き様に影響され、

円本時代始・1926＝27歳：

共産党事件・1928＝29歳：_義兄が体調を崩した際、人手不足を補うべく正式に入社。

満州事変・1931＝32歳：_単なる看板屋からディスプレイ全般を手がけるようになって事業拡大、

_新聞社主催する博覧会や百貨店の催し物を担当するうち、

芥川直木賞始1935＝36歳：_{研精社}が博覧業に専念する“ランカイ屋”となり、

台北での台湾博覧会で、国防館・糖業館というメイン・パビリオンの他、会場内数ヶ所の装飾の仕事を受け負うまでになる。姫津線の開通契機に姫路商工会議所が産業博を企画、便乗した軍部の依頼で、「国防と資源大博覧会」を練り上げ、大成功となる。「輝く日本大博覧会」で、阪神電鉄との付き合い始まる。

二二六事件・1936＝37歳：

日中戦争始・1937＝38歳：

健保+総動員 1938＝39歳：

第二次大戦始1939＝40歳：

大政翼賛会・1940＝41歳：

大阪朝日新聞主催の「聖戦博覧会」で、空前の大パノラマを実現させて、さらに評価が高まり、

大阪朝日新聞主催の「大東亜建設博覧会」では、現場の全てを任されるに至る。

皇紀2600年を記念するイベントラッシュのなか、大阪朝日新聞から博覧会の依頼を受けると、「航空日本大展覧」を企画して大成功となり、会場のあやめ池遊園地所有者大阪電気軌道の仕事も引受けるようになる。

日米開戦・1941＝42歳：

_大陸でも、防空展や軍事啓蒙イベントの仕切っていたが、

年金+総武装 1944＝45歳：

敗戦・1945＝46歳：

*敗戦とともに、責任を問われて郷里福岡に隠棲、

茶商をしたり、芋の品種改良で表彰されたりするうち、

三大事件・1949＝50歳：

朝鮮戦争始・1950＝51歳：

_昔の“ランカイ屋”仲間から、朝日新聞と阪急電鉄が協力して開催する博覧会の話が持ち込まれ、

「アメリカ博覧会」のゲートとタワーを手がけ、シンボルとしての役割を發揮させると、阪神電鉄から声がかかって、芦屋に移住し、“ランカイ屋”稼業を再開、おからの博覧会ブームに乗って、

独立回復・1951＝52歳：

_宝塚での「子供博覧会」、福井での「繊維博覧会」などの仕事をこなし、

テレビ放送始・1953＝54歳：

自衛隊発足・1954＝55歳：

*防潮堤完成記念「栄える尼崎博覧会」の会場設計を引き受けるなどしたが、

ジオラマ等かつての手法にこだわる職人気質で、_時代の変化とともに、声がかからなくなり、

芦屋から須磨に転居し、自宅の一角に二層の檜のような部屋を増築、“須磨城”と親しまれ、

安保闘争・1960＝61歳：

全国総合計画1962＝63歳：

トルショック・1971＝72歳：

石油ショック1973＝74歳：

なお、夢を追い続けながら、

成田衝突・1978＝79歳：_没した。

橋爪紳也「人生は博覧会 日本ランカイ屋列伝」、